

未知の時代をリードする人財を養成 2022年「新しい理工学部」誕生

成蹊大学／理工学部

Seikei University

予測不能な未来に向けて、
進化する成蹊大学

情報社会の次の段階として定義されている未来社会のコンセプトは Society 5.0。IoTやロボット、人工知能（AI）など先端技術の浸透によつて、社会のあり方が大きく変わりつつある。企業においてはデジタル技術とデータを活用し、消費者や社会ニーズに基づいたビジネスモデルの変革が急速に進展しており、今や、特定分野に限られた能力のみでは、社会の複雑な課題を解決へと導くのは難しいといえる。

成蹊大学では、未来社会で求められる人材の資質を、「高度なICT活用力と専門の垣根を越えた発想により、課題解決に向けて自分のビジョンを提示し、新たな価値を創造

できる人財」としている。

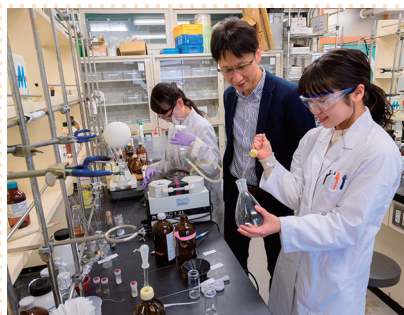
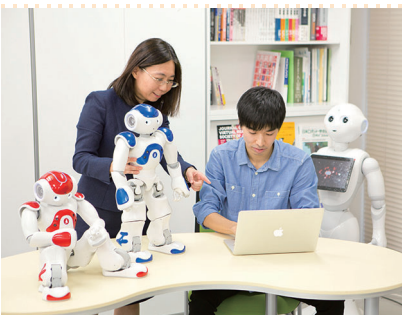
Society 5.0の到来を見据え、早期から教育改革を進めてきた同大学は、2020年4月に「成蹊ブリリアント2020」をスタート。経済学部を改組し新たに経営学部を設置し、経済学部、経営学部、法学部、文学部、理工学部の全5学部でより高度な専門性を持った人材の育成へと舵を切った。

このほか、もう一つの専門性を修得するための「副専攻制度」を設置。自分の興味関心に沿った「学びのデザイン」をかなえる制度で、経済学や総合ITなど17領域※を用意。所属学科の学びにプラスの専門性を身につけ、個々の強みを伸ばす。また、学部横断型の少人数選抜制グローバル教育プログラム「EAGLE」も開設。同大学では文系理系すべて

の学生がワンキャンパスに通う強みを活かし、伝統を継承しながらさらなる教育の充実を図っている。※2022年4月からは18領域となる。

理工学部は1学科5専攻へ
「新しい理系」を育む学び

さらに2022年4月、理工学部が生まれ変わる。従来の3学科から理工学科の1学科に改組し、学問分野を明確にした5つの専攻、「データ数理専攻」「コンピュータ科学専攻」「機械システム専攻」「電気電子専攻」「応用化学専攻」を設置。「専門性×融合分野」「専門性×ICT」「専門性×コラボレーション」の3つの資質を備えた「新しい理系」を養成するため、独自の学びを展開していく。学生は所属している専攻で深い



（左上）すべての専攻でICTを必修化。コンピュータの基礎、プログラミングなどを学ぶことで、変化し続ける社会にも役立つICT活用力を身につける。（右上）体験型授業を通して座学で得た知識の定着化を図るだけでなく、状況変化に対応する力や柔軟な発想力を養う。（左）2024年秋完成予定の新棟。文理融合の様々なアクティビティを可能にし、創造性を育むことに適した環境を整備する。最先端の研究環境や情報教育設備などを備えた、新しい理工学部の教育・研究拠点となる（画像提供：株式会社竹中工務店。計画は現段階のものであり、変更となる可能性があります）。

教育改革が進む成蹊大学。2022年4月、理工学部が1学科5専攻に生まれ変わる。変化に満ちた未来に対応するため、未知の社会課題を果敢に乗り越えていく「新しい理系」を養成する。

取材・文／福島寿恵

2020 年度 理工学部
就職率

97.0%

(2021 年 3 月卒業生実績、就職者数：288 名)

進路指導教諭が選ぶ
「小規模だが評価できる大学ランキング」

東京私立大
第 2 位

(卒業生 1,000 ～ 2,000 人規模・女子大を除く※)

著名企業 400 社 実就職率ランキング

第 2 位

(東京私立大の実就職者数・卒業生 1,000 ～ 2,000 人規模 ※)

※「大学探しランキングブック 2022」(大学通信発行)より

未来が求める「新しい理系」の 3 つの資質

専門性 × 融合分野

高度な専門性と他の理系分野を融合させて
新しい価値を創造できる



専門性 × ICT

ICTを駆使して社会の変化に最適なカタチで
専門性を発揮できる



専門性 × コラボレーション

他の専門性を持った人々と連携して
社会課題を解決できる



専門知識を修得し、専攻の垣根を越えた融合分野の科目により学びの幅を広げる。また、ICT教育をすべての専攻で必修化し、プログラミングやデータサイエンスといった実社会で通用するICT活用力を身につける。「科学技術が加速度的に進歩し、社会に与えるインパクトは非常に大きくなっています。誰でも利用しやすくなっているからこそ、人間がその技術をどう活用するか問われる時代に突入します。学生の皆さんには、科学技術の進歩が社会にどう影響するのかをきちんと考えられる社会人になってほしいと思います。そのためには、理系の専門知識に加えて、ICTリテラシーや経営学、社会学など他分野に及ぶ幅広い知識と教養を養い、それらを実社会でどう活かせるかを考えられる人になる必要があります」と、理工学部長の小池教授は語る。

協働で課題に取り組み、新しい価値を見出す

新しい理工学部では、専攻を越えたグループワーク型の科目や授業を数多く用意している。社会での実践力を鍛える「連携プロジェクト」科目では学生同士が協働し、企業や地域における課題を発見してチームで

Information

成蹊大学



1912年に創立された成蹊実務学校が源流。成蹊実務学校は教育者中村春二により創立され、後の1925年に創設された旧制高等学校が戦後の学制改革で現在の成蹊大学となり、高等教育機関としての姿を確立。「少人数制による個性尊重の人間教育」の伝統は、総合大学となった現在もゼミ・研究室での学びを中心とした教職員と学生の距離の近さという特徴と、旧制高等学校のリベラルな学風とともに受け継がれている。

●DATA

〒180-8633 東京都武蔵野市吉祥寺北町3-3-1
TEL 0422-37-3533 (アドミッションセンター)
URL <https://www.seikei.ac.jp/university/>

解決していく。さらに社会的要請の高いテーマについて重点的に学ぶ「特別プログラム」も設置する。経営科学、生命科学、教育手法といったプログラムからなり、他専攻の学生とのグループワークやディベートなどアクティブラーニング形式で行うという。

これらを整えた背景について、小池学部長はこう語る。「専攻の垣根を越えたいわゆる『縦割り型』ではない学びの形により、異なる専門分野の人が集まると、1+1が3にも4にもなり、シナジーが生まれます。新たな理工学部では他者から得られた気づきや発見を学びへと昇華し、経験知を備えた人材の育成を目指します」。

特色ある授業や実践的プログラムを通して個々の専門性を確立するとともに、幅広い視野や柔軟な発想力を培いながら、専攻の異なる学生が相互に学び合う。こうした協働学修は、課題解決の糸口となる。また、多様な人の中で個々の真価を発揮する経験を積むことも可能だ。

「個性尊重の人間教育」の伝統に裏打ちされた成蹊大学の教育は、時代に即した形で継承されており、今後「新しい理系」をはじめとする唯一無二の人財を育成していく。



理工学部
学部長
小池 淳 教授

東北大学大学院工学研究科修了。成蹊大学副学長を経て、理工学部長に就任。博士(情報学)。